

第 1 回 運航の改善による CO2 削減協議会 議事概要

日時： 令和 4 年 6 月 16 日(木) 10:00 ~ 11:30

場所： Web 会議

<1. 設置要綱説明、座長選出>

①設置要綱説明

協議会設置要綱(資料 1)を説明し、特段の異論はなかった。

②座長選出

東京工業大学屋井教授が本協議会の座長に選出された。

<2. 座長ご挨拶>

昨年の検討会にて、航空の脱炭素化推進に向けた野心的なロードマップが出来上がった。島国の日本は航空交通無しでは発展できない。今は厳しい環境にあるが、JAPAN オリジナルの取組を出していければと思っている。本協議会はその活動の第一歩であり、航空交通の重要性に鑑みて、方向性をしっかりと定めていけるよう貢献していきたい。

<3. 交通管制部長挨拶>

航空局では、昨年 12 月の「第 4 回航空機運航分野における CO2 削減に関する検討会」において取りまとめた「航空の脱炭素化推進に係る工程表」をもとに、3 つの分野で具体的に推進することとした。

運航の改善に関しては、中長期的な取組となるであろう航空交通全体の最適化と、航空路、出発及び到着、空港面といった運航場面ごとに取組がある。本協議会は、短期的施策を航空会社の皆さんとともに一つ一つ具体的に実行に移していくためのものと位置づけて進めていきたい。

座長からもございました通り航空交通の発展は極めて重要。安全第一を前提としつつも、新しい取組にもチャレンジしていきたい。皆さまのお知恵やお力をいただきながら、屋井先生のご指導のもと、組織の垣根を超えて、良い事例の水平展開や効果の見える化にも取り組んでいきたい。

今月、改正航空法が成立し、脱炭素化に向けた取り組みを力強く進めていく時期と思っている。皆様の活発なご議論をいただき、盛会となるよう祈念する。

<4. 議事(1) 事務局説明>

資料 2 を事務局から説明

<5. 議事(2) 構成員からの取組説明>

資料 3 を成田国際空港(株)から説明

資料 4 を中部国際空港(株)から説明

資料 5 を航空局から説明

資料 6 を全日本空輸(株)から説明

<6. 議事(3) 自由討議>

- 羽田における ANA の取組は非常に良いアイデアだと思う。他方、我々が使用するスポットでは、エプロン照明塔など構造的な問題により実現が難しい。これから自走でスポットアウトできるようなスポットが増えるとありがたい。
- 現在滑走路近くまでトーイングで引っ張っていくロングトーイングの検討を進めている。タクシー時の消費燃料の節約はもとより、空港周辺地域への騒音軽減へ寄与する取組であると考えている。今後もこういった取組を継続していくので、ご協力いただければ幸い。
- 羽田の 81 番、84 番スポットは、そのまま滑走路側にスポットアウトした方が効率的に思えるが、今までターミナル側にプッシュバックをしていた理由はあるのか。
⇒自走出発方式を導入するにはクリアすべき課題があった。例えば、オープンスポットには至るところにエプロン照明塔があるため、両翼端のクリアランスを評価しない限りは前に出て行けない。今回、81 番、84 番スポットに加え、82 番スポットについて自走出発方式ができるクリアランスがあるなど、課題がクリアできたので実現した。
- TEG(Time Efficiency Guideline)の取組において、定時性と燃料節減を天秤にかける際の判断の目安はあるのか。
⇒速度を上げた場合における燃料費用の増加に関して、パイロットへの意識付けが重要。使用滑走路による所要時間の違いの見える化も図っている。
- 運航の改善に向けた工程表の説明において、RNP-AR の運航基準の見直し、また、導入空港の拡大という話があったが、通達の改正時期について教えていただきたい。さらに、羽田の滑走路 16 L/R への導入計画と具体的な時期について教えていただきたい。
⇒現在検討中である。
- NADP2 の実施率が機種によって差が出ている理由は何があるのか。
⇒訓練時、特に実施率が高い B787 においては教官と訓練生との間で、意識付けを積極的に行ったことが効いたのではないか。
- 気象情報などは各社間で情報共有されていると思うが、CO2 削減のための様々な手法について共有される場はすでにあるのか。
⇒そういった場は今のところない。
⇒本協議会を情報共有の場として活用いただければと思う。
- 航空会社は 1 分でも運航時間を短縮したいものというイメージがあるが、多少でも飛行時間の延長が許容できると CO2 排出を大幅に削減できる。エアラインとしてそういった考えが許容できることについてのお考えなどあれば教えていただきたい。
⇒燃費の良い速度で飛行できるよう、ブロックタイムを 5 分程度延ばしているケースもある。また、追い風が強い場合や早着が予想される際にはできるだけ燃費の良い速度で飛ぶなど工夫している。
- 細かな取組が紹介されたが、こういった各社の事柄を共有する場になっていくと思う。今後は一般化を進められるものを見つけ出して、取り組んでいくことにしたい。

<7. 議事(4)その他>

事務局より資料 7 を説明し、特段の質疑等はなかった。

<8. 閉会 屋井座長>

本協議会では、運航の改善に向けた工程表をベースとして、中長期的なものは俯瞰的にあるいは諸外国の動向も注視しながら色々なことをオリジナルに考えていく場にしたい。他方、短期的なものはこのロードマップに書かれていることがあるので、一般化できることを検討して、ニーズをしっかりと捉えながら改善すべきところはしていく。今後はその両輪で進めていければ良いと思う。

以上